

みつばちと花と人間と

—みつばち研究会の活動—

鳥越 俊彦・木村 公之・能勢 公紀・関本 秀一・鳥越 悠紀子

(NPO法人人と自然の会 みつばち研究会)

1. サークル紹介

- ・1997年(平成9年)サークル結成
- ・NPO法人化を機会に、活動内容を少しづつでも広く、深くして行こう、との目標と願望を兼ねて、名称を「みつばちサークル」から現行の「みつばち研究会」に改変した。
- ・セイヨウミツバチの飼育を通じて、社会性昆虫であるミツバチ及び環境について学ぶ。
(日本古来の野生のニホンミツバチを対象にすべきではという声もある。)
- ・その傍ら、イベントを通じて、ミツバチの暮らし及び環境について啓蒙を行う。
- ・現在のメンバーは、上記5名。大谷先生のご指導の下、ミツバチに刺されることも厭わず、頑張っております。

2. 活動内容

近年の主な活動は、次のとおりです。

- (1) ミツバチのお世話
- (2) ドリーム・スタジオ
- (3) ミュージアム・フェスティバルへの参加
- (4) 三田市子ども環境セミナー
- (5) 老人ホームの高齢者と地域子供会合同のハチミツ絞り
- (6) クリスマスキャンドル作り
- (7) ハチミツの販売 等

なお、2000年(平成12年)には、兵庫県青少年本部「親子自然ふれあい塾」の助成金を、また、2002年(平成14年)及び2003年(平成15年)には、独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター「子どもゆめ基金」から助成金をいただいた。

3. 以下、これらの主なイベント等を説明しながら、活動状況をご紹介します。

3- (1) ミツバチのお世話

- ・3月末ごろセイヨウミツバチ1群(10,000匹)を購入。
- ・ローテーションを決めて、週1回のペースで内検を行う。
(チェック内容) ①女王バチの有無
②貯蜜量
③花粉の量
④産卵の状況 等
- ・花が豊富にある時は、ハタラキバチの数の増加が大。
- ・はちみつが貯まると、お世話の対価としてはちみつを頂戴する。ミツバチから見ると、泥棒と見えるらしく、時々刺される。
- ・ハタラキバチの寿命は?
- ・蜜を食べて、巣の材料のロウがどうして出来るのか?

- ・正六角形がどうして作れるのか？
- ・構造計算は間違えないのか？
- ・ハタラキバチは怠けないのか？ 等々

3－(2) ドリーム・スタジオ

毎月第3日曜日博物館の日に、人と自然の会が実施しているイベントです。

毎月来るリピーターの子どものもいるし、限られたメニューの中から興味を引くように、切り口を変えて提供しています。ミツバチを五感で感じてもらうことに尽きると思いますが、毎回新しいメニューを1品付け加える努力をしています。

人気メニューは、①生きたミツバチの観察（「女王を探せ」）、②ミツバチに触る、③ミツバチになって模型の巣に入る、④顕微鏡で花粉や針を観察する、⑤ハチミツをなめる等本物を見る、触る、食べるといったところです。

3－(3) ミュージアム・フェスティバル

11月初旬、有料でもよいので、ハチミツ絞りをメインに実施。PRが広い範囲に届くので、普段館まで来られない地域の方がわざわざ、蜜絞りに来られます。また、大人の方の参加が多いのも特徴です。

3－(4) 三田市子ども環境セミナー

三田市が企画され、人と自然の会が受託。小学校高学年の子どもが対象。1日コースなので、退屈させないように工夫がいる。

昨夏は、自分たちが絞ったハチミツをお土産に持って帰るビンのシールを、各自工夫して、世界に1つしかないハチミツが好評だった。

3－(5) 老人ホームの高齢者と地域子供会合同のハチミツ絞り

植物、動物のセラピーがあるなら、ハチミツにもその効果は十分あるのではないかと考えて企画。

さらに、核家族化で、子ども達は祖父母と同居していない。老人ホームには、子ども達は普段出入りしない。世代間をつなぐイベントとした。

特に、高齢者の方に好評であった。

3－(6) クリスマスキャンドル作り

ミツバチが作ったミツロウを使って、ろうそくを作るもの。時期はクリスマス前が効果があると考え11月下旬から12月中旬で企画。

ミツロウソクは、奈良時代に仏教と一緒に中国から入ってきた日本最古のろうそくです。融点が高いので粘土感覚で加工でき、子どもから大人まで楽しめます。時間があれば、さらに自然の素材を使って、燭台も作ります。

最後は、手作りのろうそくを灯して、ハチミツ入りクッキーとお茶で反省会です。

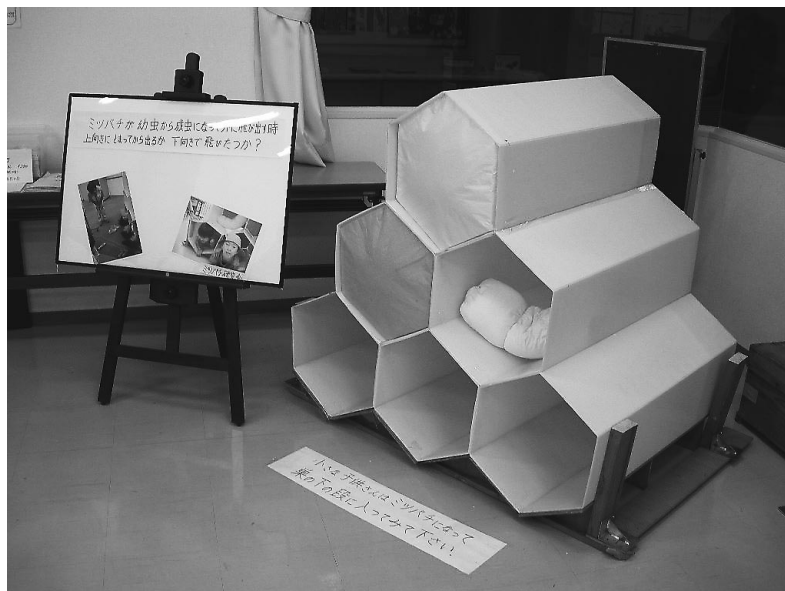
3－(7) ハチミツの販売

絞ったハチミツは、有料イベントではお土産に使いますが、毎月の博物館の日には、販売もしております。

4. 今後の課題

- (1) スズメバチ対策と越冬
- (2) 女王バチの人工孵化

- (3) 他グループとの連携によるレパトリーの拡大
例：ハチミツの料理への活用、密源・花粉源植物の勉強等
(4) メンバー確保



当日の展示 (1) 巣箱の模型 (子供が入ることができる)



当日の展示 (2) ミツバチの攻撃を防ぐ網をかぶったマネキン3体 (男・女・子供)